

助成年度：平成 21 年度

[所属] 東北大学大学院 農学研究科

[役職] 助教

[氏名] 大村 道明

[課題]

農業を題材とする自己成長型 Web アーカイブによる都市農村交流の可能性に関する研究

[内容]

宮城県丸森町を対象に、インターネットと GPS、および Web カメラを用いた移動可能な映像情報収集システムを試作し、試行的に運用した。このシステムの運用を通じて、その運用に関する課題を抽出するとともに、都市と農村の間の情報流通を活性化させることが、人的交流の活性化にも繋げうるかをアンケート調査等によって検証することが本研究の狙いである。また同時に、情報流通の活性化が農業・農作物への都市住民側のリテラシーを変化させうるかについても検証した。移動端末は「スマートフォン」とし、その内蔵機能を統合化することで、ここのデバイスの組み合わせではなく、安価で手軽に入手できる形をとる事ができた。本研究では東芝製 T-01A をベースに開発を進めたが、いわゆるスマートフォンのみならず、GPS 機能を持つ携帯電話に後から「アプリ」として組み込む事も可能と考えられる。移動端末を多くの人が日常的に利用する携帯電話とすることで、システムに取り込める情報量は飛躍的に向上できる。当初計画した研究方法の一部は達成できなかったが、目的に対しては、次のような示唆を得た。まず、情報流通の活性化が人的交流の活性化に繋げうるかについては、Web システムが個人の意向に及ぼす影響が、居住地の属性によらず発揮されたことから、コンテンツの作成技法やビジネスモデル構築方法いかんによって、ある程度有効であると考えられる。情報流通の活性化が農業・農作物への都市住民側のリテラシーを変化させうるかについては、農村地域居住者にすら農業・農作物の、特に価格形成に関するリテラシーが欠落しており、それを都市住民に求めることについては相当困難であると考えられる。